



第参行を成満し、法華経寺境内を練り歩く副住職(右から4番目、2月10日午前6時過ぎ)

願 満

復刊第二十号

2014年3月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766

副住職が法華経寺大荒行堂で

大本山中山法華経寺の日蓮宗大荒行堂に第参行として入行していた身延別院の藤井教祥副住職が二月十日、壹百日間の修行を終えました。教祥師は同寺祖師堂で行われた成満会に臨み、お祖師様に参行成満の報告と御礼言上を致しました。

成満の日を迎えた法華経寺の境内には、夜が明けきららない前から、たくさんのお寺族・檀信徒が全国から詰めかけました。大荒行堂に至る参道沿いには赤、紫、緑など色鮮やかな成満旗がびっしりと立てられ、成満の日ならではの雰囲気を作り出していました。

午前六時、大荒行堂の瑞門が開くと、寒壹百日の大荒行を終えた百二人の修行僧が姿を見せました。伸ばしたままの髪と髭が壹百日間という月日を物語っていました。

今回は二日前の二月九日に関東地方に記録的な雪が降り、成満の日にも多くの雪が残っていました。午前八時から祖師堂で成満会が始まり、修行僧たちの読誦する大音声の経文が堂内に響きました。最後に祖師堂に集まった檀信徒、参拝者たちと修行僧たちのご祈祷を行いました。成満会が終わると、修行僧たちは寺族・檀信徒のもとに次々と戻り始め、副住職も、出迎えた当院修徒の教瑞師らの前に元気な姿を見せました。

二月二十三日には、身延別院で帰山奉告式が行われました。副住職をはじめ、今行で成満を迎えた計十四人の修行僧が清浄衣に身を包み、十思公園に集まって記念撮影。檀信徒と共にお題目を唱えながら、町内を練り歩きました。その後、身を切るような寒さの中、修行僧十四人による水行が行われ、たくさんのお檀信徒が見守りました。

(四、五、最終面に特集) (平山)



とても広い境内。正面奥が本堂だ

御首題を いただく旅

第二十回 千葉県大多喜町・妙厳寺

深い山中で盛んな活動

願満二十号が皆さんの手元に届く三月は気温も上がって暖かくなっていると思いますが、今年の冬は本当に多くの雪に見舞われました。実は、今年の一月十九日に私は房総半島のやや南東の内陸部に位置する大多喜町の寺々を訪ねてきました。船橋市を出発した時は何ともなかったのに、大多喜町に近づくにつれ、積雪が道路を覆うようになってきました。私を含め、多くの乗用車がノーマルタイヤだったものとみられ、滑らないようにとゆっくりゆっくり走行しています。市川や船橋よりもずっと南の房総半島にやってきました、ここで雪に見舞われるなんてびっくり！お寺を参拝する旅にやってきました、交通事故に遭ったのはご利益どころではありません。車の中で私はお題目を唱えながら、雪道の区間を何とか乗り切ったのでした。

さて、大多喜町は、日蓮大聖人がお生まれになった誕生寺や立教・開宗の地・清澄寺などに近い地域だからでしょうか、日蓮宗の勢力が強く、町内には三十四もの日蓮宗の寺院があります。今回ご紹介する妙厳寺もその一つです。ただし三十四か寺あるといっても、その多くが過疎に悩む山間地にあり、無住のお寺も少なくありません。お葬式や法事などがあるときだけ、代務(兼務)をしているご住職が、別のお寺から駆け付けるかたちをとっているのです。

妙厳寺も、身延別院のような街の中にあるお寺から見たら、すごい山奥の寺院に映ります。周



辺に集落はありません。ご住職はふだん、東京・池上本門寺に勤務されています。けれどご住職がいなくても、何人かのお弟子さんたちがお寺に集い、活発な活動をしています。地元では大多喜南無道場とも呼ばれています。いま社会人一年生の私の娘が、小学校三年生のとき、妙厳寺が主催した「こども道場」という三泊四日のイベントに一人で参加させたこともありま

す。今回、私が訪ねた日も、一般の人を対象にした「仏教塾」という勉強会が開かれていて、ご住職もおられました。たまたまお昼時に訪ねたところ、ご住職は「お昼ごはんをまだ食べていないのでしたら、平山さんもみんなと一緒に食べませんか」と勧めてくれ、仏教塾の参加者たちとカレーライスをいただきました。千か寺参りのこと、仏教塾のことなどで話がだいに盛り上がりました。昼食後、私は本堂でお自我偈やお題目を唱えました。その間にご住職は、妙厳寺のほか、代務をされている本明寺、妙勸寺の御首題も書いてくれました。境内のあちこちに雪が残る寒い日でしたが、心の中は温かい気持ちになっていました。

帰山奉告式に百五十人



水盤の前で肝文を唱える副住職（奥・中央）



勢いよく水をかぶる副住職（中央）



油かけ大黒天の前で読経

檀信徒の皆さんの支えがあったからこそ、こうして大荒行堂第参行を無事に達成することができました。二月二十三日に行われた帰山奉告式で藤井教祥副住職はたくさんの檀信徒が見守る中、百日間の修行の日々を振り返って、こう率直な思いを述べました。第参行を成就した副住職の姿を一目見ようと百五十人の檀信徒が当院を訪れました。

一行は、正午から、十思公園で、副住職はじ

め十四人の修行僧を囲んで記念撮影。その後、十思公園を出発し、当院を中心とする小伝馬町一帯を修行僧らと共に、お題目を唱えながら練り歩きました。

当院前に到着すると、副住職ら修行僧が本堂の前で、無事成満したことを奉告。続いて大荒行堂で行われていた水行を披露しました。修行僧は、水盤の前で肝文を唱えた後に、一斉にわが身に水をかけました。

今年の二月は、二度にわたって東京も大雪に見舞われ、帰山奉告式当日も厳しい寒さでしたが、修行僧は勢いよく水をかけ続けました。大荒行堂での厳しい修行の日々をほうふつさせる水行のさまを、檀信徒はじっと見守りました。

「私の体は皆さんのために」



帰山奉告式に先立ち十思公園で記念撮影



本堂に集まった檀信徒さんを前に御祈禱を行う副住職ら(写真左)

謝辞を述べる副住職(写真下左)

小伝馬町内のお練りでは大黒さまを乗せた寶舟もお目見え(写真下右)



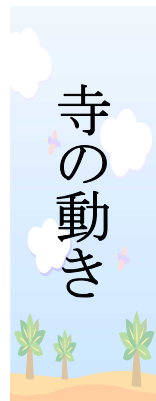
副住職が謝辞

水行の後は本堂に場所を移し、厳かに帰山奉告式が行われました。第参行を成し遂げたことを証する「許証」が東京東部修法師会会長で葛飾区積善寺住職の林貫恵僧正から副住職へ伝達されました。来賓の東京都東部宗務所所長で江戸川区長勝寺住職の田村宏順僧正が「私が若い頃、師範に『荒行堂には入れるときに入っておけ』と言わ

れた。そのこのの意味が後になってようやく分かった。第参行ともなると自分が『入りたい』と思っても入れない。師範の都合、檀信徒の都合、様々な都合が合わないといけない。たくさんの方々の思いを背負って三百日の修行が達成できたことを心に刻み、宗門の発展のために、これからは力を発揮してほしい」と述べました。林貫恵修法師会会長、江信会会長で深川浄心寺の外山寛穂住職、岩手県遠野市法華寺の阿部是秀住職、二之江妙勝寺の高松孝行

住職からも祝辞をいただきました。当院を代表して挨拶に立った藤井教公住職は「(副住職は)まだ学ぶべきことがたくさんある。どうぞこれからもご指導ご鞭撻をいただきたい」と述べました。最後に副住職が挨拶に立ち「私の体は全部、檀信徒の皆さんと共にあります。手は皆さんを守るため。目は皆さんを探すため。心は皆さんを思うため。どんなことでも相談に乗り、寄り添っていくことをここに誓いします」と謝辞を述べました。

寺の動き



盛況だった節分会と星祭り



たくさんの参詣者が集まった節分会

身延別院の節分会と星祭りが二月三日に行われました。立春を前にした毎年恒例の行事です。この日午後一時から、本堂で節分会追儺式が行われ、檀信徒百人がご祈禱を受けました。今年は何年にもない厳しい寒さに見舞われていますが、この日は春のような陽気に恵まれました。豆まきの時間が近づくにつれ、多くの参詣者が境内に集まりました。午後一時四十五分になると、年男・年女の皆さんが本堂から境内の

参詣者に向かって、袋詰めにした福豆や福銭を勢いよくまき始めました。

年男・年女の皆さんが「除災得幸 福は内」と言いながら、大きな枡から一斉にまくと、参詣者は夢中になって受け止めていました。中にはダンボールの小箱などを持参し、それを頭の上に掲げて豆を受ける人の姿も見られました。豆は六斗五升分を用意しましたが数分間で空になるほど、今年も盛況でした。

景品引き当て大きな歓声

豆まきの後は、豪華賞品の当たる福引が本堂で行われました。年男・年女として申し込みを済ませた檀信徒さんを対象に行っている恒例の



年男年女の檀信徒でにぎわった福引抽選会

イベントです。商品は本年も、帝国ホテルペア

宿泊券、デジタルカメラなどの豪華なものでした。また、鰻の伊勢定お食事券、デザート商品券、博多鳥鍋セットなどの賞品が総代から提供されました。さらに、高級清酒、写経セットといった、お上人からの提供品も並びました。

司会進行を担当した百武圓静師が抽選機の当選番号を読み上げるたび、賞品を引き当てた檀信徒さんたちからは大きな歓声が上がっていました。

豆入れ奉仕に延べ二十一人

身延別院の檀信徒有志が一月二十一、二十二日、節分会で用いる豆の袋詰めを地下ホールで行いました。今年は六斗五升分の豆が用意されました。

参加した檀信徒さんたちは、豆を杯で袋に入れる役、袋をホチキスで留める役など、役割を分担しながら、手際よく作業を進めていました。事前に準備をしてくれる皆さんのご協力があったからこそ、節分会は二月三日に盛大に行うことができました。豆入れ奉仕にご協力いただいたのは以下の皆さんです。

石渡日出子、小島喜恵子、伊東精子、林好江、鈴木秀子、寺久保トシ子、阿久津喜美子、勝見登志子、岡本春雄、岡本つね子、杉山尊子、酒匂三千子、中田しずえ(敬称略)。

ありがとうございました。

大荒行堂の副住職を見舞い

身延別院の檀信徒の一行が一月五日、千葉県市川市の大本山・中山法華経寺大荒行堂と総武霊園、東京都杉並区の堀之内妙法寺を参拝しました。本年最初の団参で新春初詣です。参加したのは藤井住職はじめ檀信徒の皆さん二十五人。一行は午前九時十五分に小型バスで当院を出発しました。

最初に訪れた総武霊園では当院開山で身延山久遠寺第七十三世法主の文明院日薩上人と、当院初代住職で身延山久遠寺第八十六世法主の藤井日静上人のお墓をお参りしました。続いて訪れた法華経寺では、荒行堂で修行中の藤井教祥副住職を見舞いました。一行は荒行堂外堂に案内され、副住職が導師を務める中、約四十人の修行僧に囲まれて秘伝のご祈祷を受けました。



法華経寺本院の前で記念撮影

第参行として入行していた副住職は元氣そうで、檀信徒も安心して法華経寺を出発しました。最後に訪れた東京都杉並区の堀之内妙法寺では、祖師堂で厄除けのご祈願を受け、境内を案内されました。

妙泰寺の檀信徒が副住職を見舞い

静岡県湖西白須賀の妙泰寺の檀信徒の皆さんが一月十九日、千葉県市川市の法華経寺荒行堂に入行中の藤井教祥副住職を見舞いに訪れました。妙泰寺は当院住職の実家のお寺です。

前日に東京に到着していた総代三人を含む十七人の檀信徒の皆さんは、午前九時に宿泊先のホテルを出発、法華経寺に向かいました。

一行はまず、荒行堂の面会所で副住職に面会しました。その後、荒行堂外堂で四十人あまりの修行僧に囲まれ、秘伝のご祈祷を受けました。檀信徒の皆さんは修行僧の気迫あふれるご祈祷に感動された様子でした。そして無事に法華経寺を後にしました。

新年祈祷会に三百人

身延別院で正月三が日、「願満高祖日蓮大菩薩」御開帳新春祈祷会が厳修されました。当院の新年最初の恒例行事です。元日の午前八時半から第一回目の祈祷会が始まりました。三が日の参詣者は約三百人に上りました。ご祈祷の後、参詣者には住職からお屠蘇がふるまわれ、

役員さんから祈願木札、曆、葛菓子が授与されました。

今後の予定

三月十八日(火) 二十四日(月) 春季彼岸会
二十四日(月) 彼岸会施餓鬼法要

午後一時より

四月 一日(火) 願満祖師御開帳

八日(火) 花まつり 終日甘茶供養

十三日(日) 十三日講 法要並法話

二十三日(水) 甲子大黒天祭

編集後記

当院の藤井教祥副住職が大荒行の第参行を成就しました。百日間は厳しい日々だったことでしょう。そして荒行堂を出ると、休む間もなく修行僧と共に各地の寺々をまわり、それぞれのお寺で修行僧の帰山奉告式の手伝いをしていくようです。

体をいたわり、ひとまずゆっくりと休んでほしいと願わずにおれません。

今回は、そんな副住職に焦点をあて、四ページの特集としました。

次回発行はお盆過ぎを予定しています。

(平山)

成満会 忘れられない一日



2月10日午前8時から法華経寺祖師堂で始まった成満会



夜明け前から参詣者を迎えた山門



午前6時過ぎ、境内を練り歩く



撮影者と視線が合った副住職